

広報ひらつか

市制50周年祝賀記念特集号

昭和57年7月1日／毎月15日発行／89,000部／神奈川県平塚市役所発行
編集・企画部広報課／〒254 平塚市浅間町9番1号 電話23-1111



市制50周年を祝う

川崎市は昭和七年四月一日横浜市、横須賀市、平塚市、四番目、中野平塚町から「平塚市」へと市制を施行しました。市制二十五年誌にのった「市制施行の思い出」には、当時の模様を「当日は晴天でした。早朝から火花が打ち上げられ、町は『この日は希望に燃えわたっていました』と書かれています。また、『新しき平塚市』から一週間、平塚は市制祝賀のため喜びのちまたと化しました。市内の道路という道路は、ことごとく装飾されました。旗、ちょうちん、まんぷくが美しく飾られて、空前の人出に混雑をきわめました」と、書かれており、当時の市民が「市になった」ことを喜んで、よくわかったと思います。

このように、繁栄を喜び市制昇格に沸いた平塚市でしたが、その喜びもつかのま、やがて重苦しくつらな戦争に巻き込まれていきました。そして、昭和二十年の大空襲で、平塚は何もかも失ってしまいました。しかし、平塚市民の底力は、みごとこの苦難をはねのけました。復興は、市民自らの手によって行われたのです。

市制五十周年の平塚は、市民のみなさんのおかげで、絶え間ない発展と躍進を続けています。関東大震災、戦時の苦難、戦災、戦後の混乱、復興、町村合併と今にして思えば、何もかもが平塚市民の血となり、肉となつたのではないのでしょうか。

そして現在、昭和五十一年にスタートした第二次平塚市総合開発計画を基本に「自然を愛し 心ふれあう 明るい住みよいまちづくり」を目指して歩んでいます。

市制五十周年記念事業は、中央公民館の完成により、七月一日から数々の祝賀行事を繰り広げます。また、市民の願ひでありました果樹試験場跡地の払いも決まり、総合公園のくわ入れ式でもなく行われました。こうして、平塚市は二十一世紀に向けて、先人の残してくれた功績を礎に大きく船出しようとしています。

—平塚八景 湘陰朝平—

新たな力強い歩みを

平澤市は、今年市制施行十周年を迎へた。観まふと、五年の歩みは決して平たな道のりではなかつたといへます。昭和七年七月、路展奉立におきて戦禍を被りたつた弊害をまづけ、戦中の不慣れな精神よりの困難をさへ克服し、短期間で戦前市の繁栄を感得したといへます。

現在市制七十六年がたつが、周辺町村との合併が成立し、人口十二万人を擁し、開港場方面の大都市としてまことに誇りおこさるべきところと存じます。

過ちを繰り返さず、先の努力に感謝するとともに、その教訓を後の度にとけし、次代へ引きつるべきことばは、私達の義務であります。

あると痛感します。

いまだ地方自治がとりまき環境は厳しいものがありますが、いつの時代にもさまざまな困難な問題が横たわっています。明るく希望に満ちたふたつめの市政を推進して

市制五周年を機に、二十世紀へ向けて新たな歩みを進めたい。市民のみとさんとも進めたい。いまのと存じまので、変わらぬご歩履、ご協力をお願い申し上げます。



274

275

